



「実が着くけれど、落ちてしまう・・・」

そんな被害はありませんか？

それは、ムラサキシラホシカメムシの仕業かもしれません



成虫（約5mm）

### 被害の特徴

- 7月上旬から実が緑のまま落ち、最終的には果穂ごと落下。
- 激害地では、圃場のほとんどの実がなくなるほど。
- 果穂も落ちて被害痕が残らないため、カメムシの発生時期を過ぎると、被害の原因に気づきにくくなります。



センリョウの実に群がり吸汁中の成虫



やがて果穂ごと落ちる

### ムラサキシラホシカメムシ

- ・主にイネ科、マメ科、キク科等に寄生し、県内に広く生息。
- ・7月上旬からセンリョウの実付近に現れ、幼虫、成虫ともに実を吸汁。
- ・センリョウの実のみを餌として生育・繁殖が可能。
- ・1世代は約1ヶ月。飼育下では、7月～12月の間、繁殖を繰り返すことを確認。  
→県内どこでも、加害され、大繁殖する可能性あり。

### 防除

- ・登録薬剤：スミチオン乳剤（1,000倍）
- ・花の時期に散布すると着果数の減少がみられました。
- ・7月上旬以降（雄しべが落ちてから）の散布をおすすめします。



センリョウの花